

研究推進体制(新)

中心研究者：田中耕一

研究推進委員会／研究推進会議

議長：田中耕一（事務局：JST）



島津製作所 田中最先端研究所

所長：田中 耕一

サブテーマ1：次世代質量分析システムの開発

サブテーマリーダー：田中 耕一

前処理グループ
グループリーダー：佐藤孝明

イオン化グループ
グループリーダー：田中耕一

ハードウェアグループ
グループリーダー：岩本慎一

ソフトウェアグループ
グループリーダー：梶原茂樹



京都大学 大学院 医学研究科

サブテーマ2, 3の統括：松田文彦（医学研究科 教授）

サブテーマ2：乳がん等の新規バイオマーカー同定と創薬ターゲット探索

サブテーマリーダー：松田文彦（医学研究科 教授）

主要な研究者：戸井雅和/乳がん（医学研究科 教授）

小川修/泌尿器がん（医学研究科 教授）

連携

サブテーマ3：アルツハイマー病の早期診断方法の開発

サブテーマリーダー：佐藤孝明（医学研究科 客員教授／島津製作所）

主要な研究者：柳澤勝彦（国立長寿医療研究センター 副センター長）

共同提案者から
辻本豪三元教授を削除

連携

ながはまコホート事業

連携

連携

長寿医療研究センター



科学技術振興機構（研究支援担当機関）

研究支援統括者：石田秋生

共同研究・支援契約（枠組みはそのまま利用可能）

サブテーマ2・3: 京大医学研究科を中心とした場合の新体制による具体的な態勢強化(案)内容



追加質問⑧回答

□ 臨床検体の継続的な収集

- ・ 研究推進に必要な臨床検体は 引き続き京大病院の診療科を中心に収集するが、今後はこれまで以上に注力して収集する
- ・ アルツハイマー病に関しては、長寿医療研究センターから高品質・多量の臨床検体を収集する

□ マーカーを用いた検査・診断方法への応用

- ・ 病院を中心とした病態管理から 診断・健診に繋いでゆくために、新たに京大医学研究科が総力を結集して実施しているゲノムコホート研究 1万人検体を活用する事で、診断・健診への応用を加速する
- ・ アルツハイマー病に関しては、島津が開発した新規抗体を用いて確立した前処理技術等を適用し、血中からのバイオマーカー検出を試みる

□ 実際の検査薬への展開

- ・ 以上の研究開発を通して発見したバイオマーカー候補に関し、臨床的意義、予防医学的意義が確立されれば、医学研究科のポテンシャルを更に活用し、臨床検査薬や診断薬としての利用へと更に進める